

# 富山大学アーカイブズ・ニュースレター

—富山大学の未来をひらくアーカイブズ—

ARCHIVES NEWS LETTER

2023.3.31 第10号

## 富山大学アーカイブズ歴史資料館

アーカイブズ室長 鈴木 景二

このニュースの前号で予告いたしました富山大学アーカイブズ歴史資料館は、昨年4月6日に開館致しました。その日は齋藤滋学長をはじめとする関係者各位のご臨席のもと、開館セレモニーが行われ、新聞各紙にも紹介されました。

それから一周年となります。ニュースの発行のタイミングのため、今頃になってしまいましたが、改めてご紹介いたします。

本学のアーカイブズは、平成27年(2015)4月にアーカイブズ設置検討準備室が置かれ、同31年4月に「富山大学アーカイブズ」が正式に設置されました。それ以来、学内外の関係資料の把握と収集、保存という業務が始まりました。それと並行して、教養教育の授業として「富山大学学」を開講し、おもに1年生が自分の



除幕式

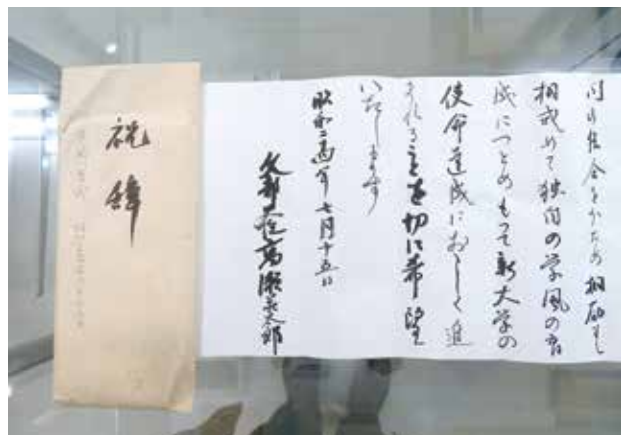
の学ぶ大学の歴史について知り、理解を深める機会を提供しています。

また、毎学期の始めには中央図書館二階のスペースをお借りし、ガラスケースを置きパネルを並べて「富山大学展」を開催してきました。

こうした活動のなかで他の大学のアーカイブを訪ねる機会が増えると、多くの大学に歴史資料や所蔵品を展示する施設があること、本学にはそれが無いということが実感され、関係者のあいだで展示室の設置が課題となりました。

学内ではそれとは別に、資料館の設置が望まれる事情もありました。本学には、教員免許を取得するための教職課程とともに、博物館などに勤務する学芸員の養成課程が設置されています。ほとんどの大学では、その実習授業の一部を学内の資料館で行っていますが、本学にはそれが無いために、どうしても学外の諸機関に全面的に頼ることになります。学内に学芸員の業務の実習ができる施設の設置が強く望まれていたのです。このような背景をふまえ、関係者のみなさまのご尽力により、ようやく資料館を設置することができました。

いまのところ、展示は所蔵資料を並べたという状況で説明も十分ではありませんし、常駐者がいないため、常時開館もできていませんが、入学式前後や大学での催しにあわせて開館するなどして、みなさまに存在を知っていただく



第1回入学式文部大臣祝辞



富山薬専アルバム

よう努めております。もちろん、個別にご連絡いただければ見学可能です。

学芸員養成課程での活用もまだ試行錯誤の段階ですが、このさき展示の改善、資料の整理作業などを授業に組み込んで、学生自身が展示を作る側になって、本学の歴史を積極的に考える機会を作りたいと考えております。

本学は3キャンパス9学部で構成され、それぞれが独自の来歴を有しています。ぜひご来館いただき、歴史の一端に触れていただければ幸甚に存じます。



旧制富山高校建物平面図



学生運動ビラ



電動計算機・和文タイプ



富山高商會会記録・教育貨幣



旧制富山高校卒業証書

## 旧制富山高校開学祝典の記念品

理事・副学長 磯部 祐子



今年、富山大学の母体の一つである旧制富山高校が開学してから、100周年に当たります。この二つの短冊は、その開学の祝典に当たり、参加者に配布された記念品です。

それぞれ、「立山の 空に聳ゆる 雄々しさに ならへとぞおもふ 御代の姿も（空にそびえる立山の雄々しさに学べと思う 大正天皇の御治世も）」、「水底のさざれのかずも 読むばかり 河の流れの 清くもあるかな（水底の小石の数も数えられるほどだ 川の水が澄んでいるのだなあ）」と記されています。

前者は、大正14年、当時の摂政の宮、後の昭和天皇が、歌会始において「山色連天」の題で詠まれた御製歌で、大正13年11月3日、病氣療養中の大正天皇に代わって、陸軍大演習統監のため北陸に行啓され、今の小矢部市で、壮大な立山を目にしたときの感動を詠んだものです。その日は「快晴、東天には立山連峰が新雪を載いて白銀にきらめき雄大を極めた」<sup>1</sup>と伝えられます。後者は、「河水清」と題された、皇后の御歌一首で、大正15年の歌会で詠まれたものです<sup>2</sup>。

大正14年の歌会始に「山色連天」と題して立山が詠まれるや、富山県民は挙げて驚喜し、メロディを伴った歌とし多くの人々に愛唱されることになったと伝えられます。一方、県はこの歌を立山三の越の岩に刻んで歌碑とすることを

決めました。その時、旧制富山高校初代校長の南日恒太郎先生は知事の命を受けて立山に実地検分<sup>1</sup>に赴き、「これぞこのさとしの御歌 巖ならぬ われらが身にも とはに刻まん（これこそまさに教訓の御歌 岩ではなく我々の身体にも 永遠に刻もう）」と歌っています。

旧制富山高校の第一回入学式自体は、昭和天皇本県行啓の年である大正13年4月15日に举行されたものの、開学の式典は、大正天皇の崩御を経て、昭和天皇踐祚（皇位継承）後の昭和3年10月17日に行われました。この短冊はその時に参加者に配られたものと思われます。

しかし、開学に力を尽くした南日校長は、その年の7月に海難事故で逝去しており、式典に出席することはできませんでした。関係者の無念はいかばかりだったか。短冊に添えられた縦15センチ横6センチの紙片には次のように記されています。

故南日校長はつとに敬神尊皇の念に厚く、つねに 今上陛下御製「山色連天」 皇后陛下御歌「河水清」を拝誦し、深く御聖徳を仰ぎ奉り、日夜育英の事業にいそしんで居られました。ついては本校開校の祝典を擧ぐるに當り、特に御歌所長入江子爵閣下の謹書を請ひ、之を記念として御頒ちすることに致しました。

この記載からは、「山色連天」と「河水清」の短冊を記念品にした理由とともに、南日校長先生への崇敬の念を窺うことができます。なお、短冊の書は、御歌所長・入江<sup>おうたどころちやう</sup>為守<sup>いりえためもり</sup>の手になりますが、為守は、昭和天皇の侍従長を務めた相政<sup>すけまさ</sup>の父君でもあります。

<sup>1</sup> 廣瀬誠「立山三ノ越の御製碑」『越中の文学と風土』（桂書房、平成10年）p339。

<sup>2</sup> 菊葉文化協会編『宮中歌会始』（毎日新聞社、1955年）p99。

## アーカイブズ歴史資料館からのお知らせ

アーカイブズ歴史資料館が、共通教育棟E棟 1階に令和4年4月6日に開館しました。

歴史資料館では【富山大学150年の歩み、新制富山大学（S24年）設置を認める文部省からの通知、第1回入学式文部大臣祝辞、学生運動が活発な頃のビラ、各学部前身校時代（師範学校、旧制富山高校。薬学専門学校、高岡高商等）の写真や卒業アルバム、実験実習機器、手廻し計算機やマイコンなど】を展示しております。

現在、常駐職員等がないため不定期の開館となっておりますが、4月以降は、入学式前後や後学期授業開始前後、また大学での催しに合わせて開館を予定しています。

不定期とはなりますが、時期を定めて開館日数を増やしたいと思っています。

開催日時については、本学ホームページ、各学部等の掲示板、歴史資料館前に掲示します。

見学の希望がございましたら随時対応いたしますので、事務局2階 アーカイブズ事務室（内線 6179）又は（076-445-6179）までご連絡ください。

※過去のアーカイブズ・ニュースレターは、富山大学学術情報リポジトリ⇨その他 に掲示されていますのでご覧ください。



所在地：富山大学五福キャンパス 共通教育棟のE棟（A8）1階。  
入口は内庭側にあります。

